編集後記

立秋も過ぎましたが、寝苦しい残暑はまだまだ続きそうです。今年も65回目の終戦記念日を迎え、特別番組を片耳で聞きながらこの編集後記の仕上げをしています。会員の方がもそれぞれの思いでお過ごしと思います。本号が会員の皆様のお手元に届くのは中秋の名月の頃となりますが、その頃には美しい名月を穏やかな気持ちで眺められればとおもいます。

9月号の表紙は、山本和義先生よりギリシャの港町の風景写真を御投稿頂きました。沖縄のグレー一色の風景とは対象的な印象です。

都道府県医師会長協議会の報告では、12題の質問がなされたようですが、これらは日本医師会自体が対応している事柄であり、返答から医師会のスタンスが見えてきます。災害担当理事連絡協議会についての玉井理事の印象記は、現在の日医レベルでの災害時の患者搬送、受け入れに関する基準策定の現状が端的に述べられており、会議場の雰囲気が手に取る様に感じられるものでした。金城理事には共同利用施設連絡協議会の様子をまとめて頂きました。當銘理事には新しい日医の生涯教育制度について話し合われた担当理事連絡協議会の報告を頂きました。生涯教育システムは今年度大きく変更されており、医師の日常の学習の状況が国民にアピールできる様に変化したとのことですが、会員からは色々な角度から意見がある様です。印象記では今後のシステムの改善方針などについてまとめて頂きました。本誌の生涯教育コーナーの問題形式にも変化がありますので、会報でのお知らせに御留意ください。琉球大学金谷教授と東大武藤教授に講演頂いた県民公開講座の報告がありました。それぞれ高齢者の転倒、骨折、寝たきり予防についての内容で、会は大変盛況だったそうです。この分野における県民の関心の高さが窺い知れます。

生涯教育のコーナーでは、昨年度の生涯教育（ハガキ申告）の上位申告者を掲載してあります。年々激戦の様相を呈していますが、システムの変更後の顔ぶれはどうなるでしょうか？眞喜屋實佑先生に代表してコメントを頂きました。まさに医師の生涯教育はこうあるべきと痛感させられる内容です。本号の生涯教育は、日々進歩している頭部MRI画像について仁井田明先生にまとめて頂きました。機器の進歩で病変の写り方も変化しており、専門外の会員にとって悩ましい分野ですので、日常診療に大変参考になるでしょう。

今回のインタビューコーナーは沖縄県公務員医師会長本竹先生です。経営再建に取り組む県立病院の現状などを述べて頂きましたが、沖縄県医学会に対しても発展的なご意見を頂きました。私も全く同意見です。地域連携医療を進めるためには、ぜひ検討が必要であると考えます。

行事のお知らせは、長井裕先生には「がん征圧週間」、我那覇仁先生には「救急の日、救急医療週間」、藤田次郎先生には「結核予防週間」をそれぞれまとめて頂いています。是非ご一読ください。

発言席には琉球大学植田先生から、県内の経口糖尿病治療現状や問題点、新しい作用機序を利用したインクレチン医療について御投稿頂きました。これまでにない作用機序をもつ治療法であり、その位置づけなど大変参考になるものです。

本の紹介コーナーには、金城忠雄先生から「切手が語る医学の歩み」の紹介を頂きました。

ロゴマークは語るでは 比嘉耕一先生から紹介頂きましたが、立体的なマークで私とのセンスの差を感じさせられます。

緑陰随筆には、7題を掲載させて頂きました。どれも筆者の先生の人柄などが窺い知れる力作でした。お忙しい中、本誌からの投稿依頼に快く承諾頂きありがとうございました。

7月17日には改正臓器移植法の全面施行が行われました。マスコミにも大きく取り上げられ、早速その第一例目の様子がTVで報道されています。医療界には会員の皆様にも関わりもある変化が相次いでいます。広報委員会でもこのような変化に応じた適切な情報を提供できるよう努力しておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

広報委員　比嘉 靖